

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400359		
法人名	特定非営利活動法人 エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 神辺		
所在地	福山市神辺町上御領391-1		
自己評価作成日	平成24年9月	評価結果市町村受理日	平成25年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成25年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様を主体に皆様が笑顔で過ごせる様、全職員が笑顔をモットーに思いやりの介護、おもてなしの介護を実践しています。オシメ対応の方でも出来る限りトイレに座って頂き気持ちの良い排泄を心掛け、また、食事にも季節の食材を料理に取り入れ、形態を工夫し美味しく召し上がって頂ける様、工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の北部に位置し、静かな田園地帯の中にあり、小学校や公民館も近隣にある。地域との繋がりも年々深まり色々な行事にも声かけしてもらえるようになり積極的に参加し、馴染の関係になる様務めている。管理者をはじめ全職員が利用者一人ひとりを大事に思い常に寄り添いながら、尊敬の念を持って支援に取り組まれている。家族からも行きやすく、また、いつも笑顔で接してもらえるのでありがたい。との声があり、細やかな心あるケアで一日一日を大切に過ごしてもらえるよう職員が一丸となり取り組まれている。医療面に於いても協力医療機関との連携も確立され24時間体制で夜間、緊急を要する対応もでき適切な医療が受けられ、安心、安全である。又、一日の楽しみである食事も旬の食材を使い季節を感じながら味わってもらえるよう心掛けている。職員の笑顔と優しさを感じられ温かみのある事業所であり、今後多いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に事業所の3ヶ条を皆で唱和し意識づけをしている。理念が介護に反映されているかミーティングで話し合っている。	事務所に掲示し毎朝唱和すると共に個人目標を順番に言われ一日の始まりで意識づけをされ実践に繋げている。又、月1回のミーティングでも周知徹底するように取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加したり、地域の「子ども110番」の家となり協力している。ボランティアで音楽療法・習字・散髪など来ていただいたり、地域の方から野菜を頂くなど交流をしている。	近隣からの職員が多く、地域行事等も把握でき、そこへ参加する事で顔見知りの関係が出来、散歩時等には声かけをして頂くなど交流が深まっている。野菜等をもらったり、お祭りのおみこしも来られ楽しませてもらっている。ボランティアの受け入れも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月一回「愛の郷便り」を配布し理解に努めている。入居者様と一緒に散歩に出たり、玄関先で歌ったりなど、地域の方にその姿をみて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催し事業所から現状報告をし参加者からの意見を広く求めている。出された意見は管理者が職員に伝えサービスの向上に努めている。	定期的に開催し、家族をはじめ、各分野の方の参加の下、現状を伝える中で質問や意見等を聞くように努めている。包括支援センターからの色々な情報提供もあり有意義な会議となり、毎回多くの質問や意見が得られ、それらは職員にも周知しサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月一回発行している「愛の郷便り」を持ち定期的に訪問配布している。運営推進会議にも2ヶ月に1度案内を持参し毎回、市職員の参加を得ている。	運営推進会議の依頼や便り等を届ける際、お話しする機会を作るようにしている。会議にいつも出席していただいているので顔なじみの関係も出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ミーティング時に身体拘束についても話題に挙げ拘束をしないケアに取り組んでいる。H23年8月以降拘束はありません。	法人での研修に参加し、ミーティングで全職員に周知され理解している。帰宅願望の方には表情や行動で察知し声かけの工夫と見守りで対応し抑圧感を招かない様努めている。玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	365日ニコニコとはできないが、自分の感情をその都度出しているプロではないと意識すること、身体的的・心理的虐待を発見した時は職員がお互いに注意をしあえる環境作り心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と話し合い、実際に成年後見制度を利用することとなった。制度を利用する入居者様がおられたため学ぶことが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類(契約書、重要事項、運営規定)を通して十分に説明を行い、疑問点をしっかり聞き、納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者主体の運営を大切に、ご家族の訪問時に明るい笑顔で何でもお話頂ける様な雰囲気作りをしている。本社から無記名アンケートを送付し意見を頂き、この意見要望はミーティングで話し合うことで運営に反映されている。	訪問時、現状報告をする中で聞き取るようにしている。法人から家族アンケートを取り各事業所ごとに集計し其の内容については職員に周知検討され改善に向け取り組み運営にも反映させている。金銭報告の際には手紙を添え状況を伝え要望等も聞く機会となる様取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、又、毎月のミーティングで職員に意見を充分に聞いて運営に取り入れている。全職員で共有できる様、ミーティングノートを作っている。	日々声かけをし意見を聞いたり、ユニットミーティングや月1回の全体ミーティングでも聞く機会を持ちその中の意見や提案等は記録し共有し対応すると共に運営にも反映させている。職員間のコミュニケーションを取り笑顔で支援できる様取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状態を把握しやりがいの出る声掛け対話を持って仕事を楽しいと思える環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回本社で開催されるスキルアップ研修に必ず職員を参加させ、内容等書面に残し、ミーティング等で発表し他の職員と共有することで研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと交流、又、研修会等で知り合った同業者との情報交換をしてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや願い、趣味嗜好等を良く聞き入れ不安感を持たせないようにする。笑顔を引き出し安心して頂ける様な声掛けに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までのご苦労にねぎらいの声掛けをし、ご家族の思いや困っていること要望や願いを良く聞き取り安心安全の対応で信頼関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が今一番何を求めているか理解し、その要望に沿った支援を心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が自分でできることは職員が取り上げずさりげなく見守り支援する。新聞・洗濯たみなどのお手伝いにより、役に立っているとの思いを持っていただいている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来設された際は、一緒に写真を撮りはがきにしていことコメントを添え送ったり、請求書を送付する折は、担当スタッフが近況を手紙にしたため同封することで家族との絆を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様のご家族、ご親戚、知人が気軽に来設しやすい雰囲気作りに努めている。毎年、年賀状や手紙を出す利用者への支援をし、自分で書けない方には代筆し送っている。	訪問しやすい雰囲気づくりと対応に心掛けている。訪問も多く、また、希望で親戚へ電話してあげたり、年賀状やお手紙等の支援もされている。又馴染の手芸店に出向く事もあり、馴染の場所や人との継続支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるよう、職員が間に入って声掛けなど支援を行っている。皆に分かりやすい話題を提供し同じことで笑える場、時間など雰囲気づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去された方のご家族よりTELLを頂いたり野菜を頂いたりと退去後もご家族との絆を大切にしながら必要に応じてご家族の心のケアにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しっかりと声をかけ関わることで一人一人の思いを聞いたり、入居者さまの表情や行動で本人の思いを汲み取れるよう努めている。	寄り添い会話を大切にし、その中から汲み取る様に努め、また、表情や行動などからも把握し、申し送りで職員に伝え、共有し対応している。笑顔と声かけを大事にした支援に心掛けている。嬉しい事や辛い事も遠慮なく言われ信頼関係が築かれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人にしっかりと声掛けをしこれまでの暮らし等、聞き出したり家族にはなつしを聞くなどし、それらの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時、一人ひとりの心身の状態を報告し、スタッフ全員で共有できる様、申し送りノートを作成、漏れの無い様対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを当日の勤務者で行い普段の本人や家族からの要望を吸い上げそれらを参考に介護計画を作成している。	アセスメントや情報提供等を基に家族、本人の要望を反映させニーズについて職員間で話し合い利用者の視点に立った計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し定期的に見直しをしている。計画については家族にも説明し承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し朝夕の申し送りの際、口頭でも詳しく伝え共有に努めている。カンファレンスに沿った介護記録にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態観察をしっかり行い、その人にとって一番良いであろう対応をスタッフ全員で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験、地域の方による音楽療法や習字体験、又、理美容室を利用し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の既存のかかりつけ医があり家族等の希望があればその意を大切にしている。しかし、緊急対応が必要な場合は弊設の委託医が24時間対応となっており、本人とご家族の同意があれば変わっていただく用意がある。	個々のかかりつけ医の受診は家族対応となっているが連携は密に取り状況はその都度伝えている。事業所対応の場合も家族に伝えると共に職員にも周知している。遠方の場合は電話で報告し状況を把握してもらっている。訪問歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人一人の日々の状態を介護者がしっかり把握し看護師に気づきや状態の変化を報告相談している。受診の場合は看護師が付添い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は必ず職員が送迎を行い、本人ご家族に安心して頂けるよう対応している。できるだけ早期退院に向け病院関係者との情報交換や相談に努めている。定期的に相談員など関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、看取りに関する指針の説明を行いその時を迎えたときは、主治医から今後の対応の説明をして頂き家族の気持ちに応えるべく、主治医、看護師、家族、職員が連携し安心して最後を迎えられる様チームで支援している。	指針も作成し利用開始時説明もされている。身体状況に変化が生じた場合は医師から家族に説明してもらい要望を聞きながら家族、医師、看護師、職員等で連携を取り、対応できる様取り組まれている。協力医療機関との24時間対応できる体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて職員があわてることの無い様、マニュアルを作成し医師との連携を図るよう、方針を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災避難訓練を行っている。訓練は発生時間の設定を日勤帯と夜勤帯の2通りで行っている。	日中と夜間を想定し、消防署の指導の下、利用者と共に訓練されている。点検も定期的に行い、避難場所の周知や避難方法等も勉強的に対応できる様務めている。運営推進会議でも報告し意見やアドバイス等得る様にしている。	訓練も毎年実施し、いざと言う時慌てず避難誘導が出来る様取り組まれているが、地域との協力体制の強化が今後望まれる。運営推進会議で防災についてを議題とし助言を得ながら協力依頼に努められる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社会の先輩として敬意と尊敬、慈しみを持った対応を心掛け入居者の立場に立った声掛けや対応をしている。	プライバシー、接遇、個人情報等の研修にも参加し、全職員に周知され、常に其の人に合わせた声掛けや対応をすると共に職員間でもお互いに注意し合い尊敬の念を持った支援に心掛ける様日々取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し自己決定しやすい言葉がけに努めている。言葉以外のスキンシップにも心掛け話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調をしっかり把握しできること出来そうなことを本人のペースで指定だ抱くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回、散髪を行っている。また、定期的に爪切りや耳掃除のケアを行い清潔を保っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒におやつ作りをしたり、野菜の皮むきなど下ごしらえをして頂くことにより作る喜びや食べる楽しみを感じて頂けるようしている。食事の際にはテレビを消し利用者と職員が会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	体調に合わせた形態で支援し、食を促す声かけや会話をしながら楽しい時間となる様心掛けている。その人の力が発揮できる場面作りもされ出来る方には声かけで準備や片づけ等してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事および水分の摂取量を記録することにより、全職員が利用者の摂取状態を把握しやすくしている。水分摂取の小まめな声掛けを行っているが、利用者が好きな時に気兼ねなく飲める様、ペットボトルに水分を入れ御渡ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分でできない方や不十分な方に対しては職員が援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、定期的にトイレへの声掛けをしたり、利用者の様子を見てトイレへ誘導しトイレでの排泄ができるよう支援している。失禁が多い方には周囲に気づかれないようさりげない対応を心掛けている。	生活習慣を活かし、トイレでの排泄を基本とし対応されている。難しい方にも2人介助で支援し気持ちよく排泄できる様取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表を作成したり、好きな飲み物での水分摂取で水分量を確保することで、また、毎朝の軽い体操やバナナなど食物繊維の多い食べ物をメニューへ加えることで便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基本としているが、本人の希望であったり失禁等あった場合は、入浴して頂けるよう努めている。入浴拒否の方には無理強いせず声掛けや対応を工夫して気持ちよく入って頂ける様、支援している。	時間帯や回数は決めてはいるが、一人ひとりの体調に配慮し希望を取り入れ清潔保持に努めている。足浴や清拭で対応する事もあるが出来るだけ楽しく入浴してもらえるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限る一人ひとりの今までの生活習慣に沿うよう心掛け、その人らしくをモットーにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬量と副作用には注意し状態観察の努めている。このカルテに処方箋をつけ、いつでも核に出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来ることを把握し、毎日がメリハリのある一日となるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の変化に合わせて公園などへ出かけたり天気の良い日は散歩するなど積極的な外出支援に取り組んでいる。入居者の表情や状態を見てドライブに連れ出したり、ご家族と出かけられるよう、支援している。	天候に合わせて日光浴や散歩等外気に触れる機会を持つと共に体調に配慮し少し遠出の外出(動物園、井原のリフレッシュ公園)などへドライブに出かけ気分転換や五感刺激が得られる機会となる様支援している。また、お芝居を見に行く事もあり楽しみの支援にも繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理のできる方がいらっしゃらないのでご本人に所持して頂いてないが、金庫へお小遣いを預かっていることを伝え欲しいものがあればいつでも使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望があれば、できる限り職員の少しの支援でして頂いている。又、ポストへの手紙の投函は職員が行っているが封筒や便せんはいつでもやり取りできる様、常備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節の花を飾るようにしている。フローリングや腰掛などに木質感を保ち暖かい雰囲気を出している。	ソファや畳スペースもあり、それぞれの居場所の確保が出来、季節を感じられる装飾品も飾られ、温度調節の配慮もされ、不快な匂いもなく、食事準備の音や匂いで生活感が感じられ落ちついて過ごせる共有空間の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にソファを置いたり、畳を敷いた場所作りをして日本人らしくを取り入れている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個性を感じさせる居室には仏壇や位牌、また、家族の写真や使い慣れた家具等で居心地よく暮らせる工夫をしている。	テレビや椅子、机、寝具などが持ち込まれ、使いやすく配置され個々の思いを活かした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで安全にしており、トイレ標示や居室の表示で自律した生活ができるよう、その工夫を心掛けている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策における地域との協力体制の強化	災害対策における地域との協力体制の確立	・施設で年2回実施している防災訓練に地域住民の参加を求める。 ・運営推進会議で防災について議題とし助言を得ながら協力依頼に努める。	1か月
2	3	施設の強みを活かした地域貢献の強化	地域に開かれた施設づくり	・施設がどの様なところか、イベント時に来設いただくことで理解を得る 又、その際、認知症に関するセミナーを開催し、理解に努める。	1か月
3	53	共用空間における居場所の快適化	既存の形態にこだわらず入居者の意向に対応する	・ホール(共用空間)において、気の合う利用者同士が過ごせる空間を作る。	1か月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。